



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第116号

発行:2015年12月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守



見つめなおす『認知症専門病院』

～ 頼られる存在を目指して ～

横浜ほうゆう病院 事務部長 前沢 恒一

「認知症に特化した専門病院」。平成13年に開院した当時は、全国的にも非常に珍しい存在であった横浜ほうゆう病院。早いもので15年が経とうとしています。この間の認知症を取り巻く環境は劇的に変化をし、例えば新しい治療薬の発売や高齢者施設等の定員の増加、度重なる診療報酬の改定、認知症に対する啓蒙・啓発活動など様々です。その環境変化の中で、当院はどのような役割を果たすべきでしょうか。

当院は横浜市旭区にあり、主な診療圏としては同区・泉区・瀬谷区となります。ここ数年のこの診療圏地域における高齢者施設数は文字通り右肩上がりで、当院が開院した平成13年4月当時の特別養護老人ホームは16箇所で定員1,514名。介護老人保健施設は7箇所で定員665名でした。それが平成27年4月ではそれぞれ30箇所・定員3,074名、14箇所・定員2,353名と施設数・定員ともに倍増しています。さらにグループホームに至っては介護老人保健施設の定員に匹敵し、この3施設の定員合計は7,000名に迫る勢いです。これは3区内の75歳以上人口の約10%をカバーし、150床規模の病院が40箇所以上できる計算になります。加えて近年は有料老人ホームの整備も一段と進み、同じく3区内の定員は2,280名。4つの施設を合計すると1万名弱。因みに瀬谷区の75歳以上人口はおおよそ1万5千人です。

		H13.4	H27.4
特別養護老人ホーム	施設数	16箇所	30箇所
	定員	1,514名	3,074名
介護老人保健施設	施設数	7箇所	14箇所
	定員	665名	2,353名
グループホーム	施設数	5箇所	83箇所
	定員	60名	1,563名

さて話はガラッと変わりますが、病院といえども医療という事業を行っている一つの企業です。経営学的な観点から考えると、企業が事業を行う目的は「顧客の創造と維持」。これはあの有名な“ドラッカー”の言葉です。これだけだと一人でも多くの顧客を獲得し、満足を追求することでリピーターとなり、安定した経営ができると理解できます。もちろんそれも重要ですが、実はそれだけに留まらないのです。なぜなら、企業の外にある社会（環境ともいえます）は生き物であり、変化し続けているからです。顧客満足を追求している間、社会は止まってくれています。企業自らが新しい市場や新しい価値を我々の手で創り出し、顧客を創り出すことが必要なのです。そして「顧客の創造と維持」という企業の目的を実現する手段となるのが、「利益」です。我々も一企業である以上、一定の利益を得る必要があります。

旭区・泉区・瀬谷区内の高齢者施設は1万床弱が整備されており、15年前と比べ認知症の方でも積極的に受け入れているのが現状です。この状況の中で認知症を専門としている「医療機関」として何ができるのか、我々の役割は何か。

当院は病院です。病院は「医療」を提供する場です。しかし当然、医療だけを提供している訳ではありません。医療をはじめ看護・介護・リハビリテーションなど様々な専門スタッフがいて、日々直接的或いは間接的に患者さまに携わっています。まさに「チーム医療」を提供しています。今後ますます増加することが予想される認知症患者さまに対し、当院のような認知症専門の精神科病院はその存在感を増していくと思っています。そして患者様はもとよりそのご家族、同業の方々などに頼られる存在であり続けたいと願っています。

認知症家族講座

～ 平成27年11月21日（土） 横浜ほうゆう病院 ～

横浜ほうゆう病院では、認知症ケアに携わるご家族、地域の方々を対象とした認知症家族講座を月に1回土曜日に開催しておりますが、このたび講座を始めて3年が経過いたしました。これもひとえにご家族、地域の方々、皆様のご協力のおかげだと感謝しております。

今回、11月21日（土）に開催しました家族講座は、いつもと少し変えて“拡大版”で実施いたしました。テーマは『みんなで考える認知症の人へのかかわり方』で多くの方に参加いただきました。前半の部では『認知症サポーター養成講座』を中心に講義を行い、後半の部では『認知症の人が穏やかになるかかわり方』として【ユマニチュード（※）】についてのビデオを見たり、実際に病棟で行った事例からロールプレイを行い、具体的な事例をもとに、共に考えることができました。“なるほど～”という新たな知識の習得ができたり、笑いがあったりと有意義な時間を一緒に過ごすことができたのではないかと思います。

※ユマニチュードとは認知症の人のケアをするためのフランスのイヴ・ジネスト氏によって開発された方法で、『見る』『話しかける』『触れる』『立つ』という4つの方法が柱となっており、全部で150以上もの技術があります。



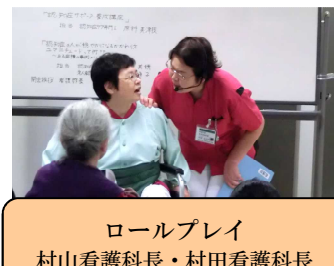
会場風景



講義 原科副看護部長



講義 早田看護師



ロールプレイ
村山看護科長・村田看護科長

優秀賞 受賞！

H27.10.19 第34回 神奈川県病院学会

3年間の認知症家族講座を一から振り返り、そこで得られた内容を『認知症介護家族の支援を考える -3年間の認知症家族講座のまとめ-』と題して学会で発表、村山看護科長が発表者を務め、見事優秀賞を受賞しました。



ほうゆう秋祭り



平成27年10月28日（水）さわやかな秋晴れの中、横浜ほうゆう病院で『ほうゆう秋祭り』を開催しました。今回は【ほうゆう保育園】からたくさんの園児が参加し、ゲームやお神輿を担いだり、園児たちのお遊戯で楽しいひとときを過ごすことができました。

そして、何ととっても祭りに花を添えたのは、患者さんやご家族の皆様の笑顔でした。たくさんの笑顔をいただき、ほうゆう秋祭りは完成することができました。



会場風景



神輿だワッショイ！



園児たちのお遊戯